

鹿児島県薩摩川内市高江町
峰山地区の組織、振興計画、活動について

でんでんたいこ スローまち
田田太古の響くSLOWな都市づくり
—農業・環境・史跡の保全、振興をめざして—



柳山を望む高江三千石広潟の水田農業



花卉園芸農家のシクラメン



手づくり自然観光公園柳山アグリランド



八間川「水辺の楽校」と市文化財江之口眼鏡橋



県無形民俗文化財「太郎太郎踊り」



新春の集い「鬼火焚き」と「たこ揚げ大会」

平成19年10月

鹿児島県薩摩川内市高江町

峰山地区コミュニティ協議会

鹿児島県薩摩川内市 峰山地区(高江町) の所在地



1 峰山地区コミュニティ協議会の概況と組織について

平成16年10月11日に1市4町4村の合併により県下合併第1号として103,000人の新市「薩摩川内市」が誕生した。

この合併の目玉は、市内48地区に地区の全ての組織を網羅した**地区コミュニティ協議会**を設立したことである、自治体財政の厳しい中で行政だけに頼らず**「地域力」での町づくり**を目的に、地区民自ら立案した**48地区の地区振興計画**を第1次薩摩川内市総合計画に組み入れて、現在各地区ともこの地区振興計画の実現に向けて鋭意取り組んでいる。

(1) 峰山地区(高江町)の概況

峰山地区(高江町)は昭和31年9月に旧薩摩郡高江村から旧川内市へ合併し、平成19年10月1日現在の人口**1,646人** 世帯数**730世帯** 高齢化率**33.6%**の**水田農業主体の地区**です。

(2) 峰山地区コミュニティ協議会の組織について

- ① **組織** 地区内51の全組織・団体を網羅した組織で構成し7部会を設置している。

② 会議体

ア 役員会 運営委員会 総会

イ その他会議 7 部会会議 自治部会、体育部会、青少年部会、健康福祉部会
環境部会、地域部会、防災交通部会
情報連絡会議 会長ほか役員と事務局

ウ 峰山地区地域振興計画推進のための 5 専門部会会議

河川・野鳥・農業振興、定住推進、商業振興、健康・野外活動の 5 専門部会

エ 柳山アグリランド作業準備委員会

コミュニティ協議会役員と専門職で作業準備委員会を構成

7 班編成 耕起・整備班、 サツマイモ栽培・商品化班、 花作り班、
看板班、 建物・構築物班、 畜産研究班、 直売所班

2 峰山地区の振興計画について 一薩摩川内市の田園文化ゾーン一

薩摩川内市が田園都市ゾーンとして位置づけている峰山地区（高江町）を 10 ゾーンに区分して振興計画を策定（平成 17 年 4 月 3 日策定 総会決定）し市の総合計画へ組み込んでいる。

(1) 水稻農業ゾーン

広瀉水田 300ha の高江三千石米ヒノヒカリの水田農業などの農業振興

(2) 花卉園芸ゾーン

シクラメン 30 万鉢などの高江三千石花の振興、切花栽培試験場開設（10 a）

(3) 野菜園芸ゾーン

野菜、やまいも、かぼちゃ、そばなど高江三千石野菜の振興

(4) 野鳥・河川の自然環境ゾーン

カラフトワシなど野鳥・メダカ・ホタルなどの保護と自然環境の保全

(5) 史跡・伝統芸能ゾーン

史跡の保全・整備と県指定無形民俗文化財「太郎太郎踊り」、「高江太鼓踊り」など
伝統芸能の保存・継承、木造和船「薩摩型船」の建造技術の保存・継承

(6) 八間川「水辺の楽校(がっこう)」ゾーン

薩摩川内市で唯一の国土交通省選定の八間川「水辺の楽校」の整備促進、八間川
「水辺の楽校」江之口眼鏡橋「星空コンサート」開催、子ども達が「遊び、楽しみ、
学ぶ」場などとしての活用

(7) 林間・野外活動ゾーン

林間など野外活動拠点の整備・活用

手づくり自然観光公園柳山アグリランドのふれあいヤギ牧場、ウサギ小屋、ハイ
キングコース、サツマイモ栽培・焼酎・やきいもの商品化、山菜採り場、草スキー
場、山頂 360 度の展望所の活用、地元企業の風力発電 10 基 2 万 kw 設置の支援など

(8) 快適住宅ゾーン

南九州西回り自動車道建設促進と高江インター周辺の「食・農・住接近」の 500
戸定住促進、平成 19 年度にモデルハウス建設と借家建設推進

(9) わくわくお店屋ゾーン

南九州西回り自動車道高江インターの開通を見越した定住促進のための複合商業
施設の建設・活用、道の駅、コンビニ、食料品、地産品店、ガソリンスタンドなど

(10) 健やか福祉ゾーン

既設福祉施設「わかまつ園」を中心にした地域密着型の福祉と健康の町づくり

3 峰山地区コミュニティ協議会の主要活動について

峰山地区振興計画 10 ゾーンの具体的展開

地区振興に関する 5 専門部会と各種委員会を中心に具体的な展開を推進している。
地区振興計画の内 **手づくり自然観光公園柳山アグリランド整備事業、「八間川水辺の楽校」整備事業、500 戸定住促進事業、南九州西回り自動車道建設促進事業、切花栽培試験事業などを具体化中。**

(1) 河川・野鳥専門部会関係

① 八間川「水辺の楽校プロジェクト」の整備と活用

- ア 平成 17 年 4 月 1 日国土交通省が薩摩川内市内で唯一八間川を選定
- イ 国土交通省が八間川の観覧席・散策路・階段を整備済み、平成 19 年度から薩摩川内市が江之口眼鏡橋と周辺の公園化整備中
子ども達が「遊び、楽しみ、学ぶ」場としての活用するとともに「八間川水辺の楽校星空コンサート」などとして活用する、また地区民による管理作業を実施中



② 木造和船「薩摩型船」の建造による伝統技術の継承と伝統文化の保存

平成 17 年度、平成 18 年度は全国的に木造和船の船大工が皆無の中で伝統技術の保存のために市委託事業として建造、将来は全国向けの経済産業省の広域事業モデル発信事業などを活用して、全国から受注を受け峰山地区の新規起業として事業化を目指す。



③ 江之口眼鏡橋「絵と写真」のコンテストの実施

平成 17 年 4 月 1 日国土交通省が薩摩川内市で初めて八間川を選定、これを記念して江之口眼鏡橋「絵と写真」のコンテストを実施



④ 自然観察記録大会の実施

峰山地区（高江町）の水生生物・野鳥の観察記録コンテストのために平成18年6月から平成19年1月まで観察記録を募集し、保育園、小中学校から約50点の応募があった。

(2) 農業振興専門部会関係

① 切花栽培などの農業振興に関する研究会

- ・平成16年度 そばいっぱい栽培事業を実施 25 a (2反5畝)
- ・平成17年度 そば栽培オーナー事業実施 10 a (1反)
- ・平成18年度 高江中学校生徒がそば栽培 15 a (1反5畝)
- ・平成18年度 切花栽培などの試験栽培事業を実施 10 a (1反)
- ・平成19年度 切花栽培事業を継続し商品化予定 10 a (1反)



② 農地・水・環境保全向上対策支援事業の事業推進

平成19年3月高江地区資源保全組合を設立、4月薩摩川内市と協定締結
平成19年度から農業者、地域住民が一体となって、環境保全、農業施設保全、生態系保全、水質保全、景観形成の事業を開始

③ 薩摩川内市のコミュニティ活性化事業

平成18年度は農業振興事業(切花栽培、ギカンチュウムなど4種類)、平成19年度は八間川「水辺の楽校」開校記念江之口眼鏡橋「星空コンサート」を実施



(3) 定住推進専門部会関係

① 峰山地区(高江町)への定住促進

ア 高江インター周辺への 500 戸定住促進の手づくり PR チラシ 3,000 枚を作成し、平成 18 年 6 月以降事業開始

イ 峰山地区(高江町)内の売地、売家、借地、借家探しを平成 18 年から実施中

ウ 平成 18 年 8 月以降 借家転入 3 世帯 10 名(小学 1 年・3 年生、中学 1 年生を含

エ 平成 19 年度内に市内建築会社がモデルハウスを建設計画中

なお、市が企画している「おかえり支援事業」と「余暇処交流体験モデル事業」に参画し、平成 19 年 10 月に 1 世帯 3 名を民泊で受入れ。



② 南九州西回り自動車道の建設促進

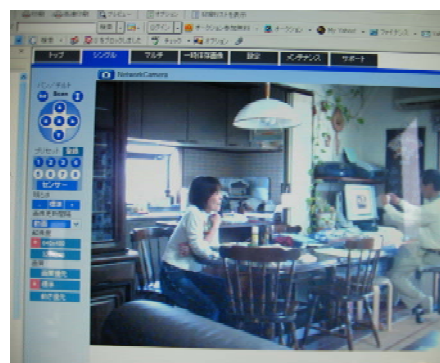
高江インターを含めて市内に 3 インター建設予定、平成 18 年度から用地買収中

③ 全国への広域事業モデル発信事業

経済産業省の史跡・伝統文化・各種行事などの地域情報の全国への発信事業へ参入し、平成 17 年 9 月から国へ情報発信中

④ 光ファイバーの導入と情報家電の導入事業

平成 17 年から光ファイバーを導入して高速インターネット開始、同時に情報家電(I P テレビ電話、ホームセキュリティ、ホームヘルスケアなど)の導入試験平成 18 年 3 月終了、その後引き続き活用中



(4) 商業振興専門部会関係

わくわくお店屋さん事業として県道沿い商店街の復活をねらい文化祭でのお店屋さん、柳山アグリランドでの地産品直売所開設に取り組み中



(5) 健康・野外活動専門部会関係

① 手づくり自然観光公園柳山アグリランド事業の推進

平成 18 年 7 月以降手づくり自然観光公園柳山アグリランドの設置・整備事業開始
来園者平成 18 年 3 万人、平成 19 年 10 月現在 5 万人、延べボランティア人員 3,500
名



② 平成 18 年度県の共生・協働の地域社会づくり助成事業

- ア 事業 **自然観光公園柳山アグリランド「ふれあい牧場」設置事業(標高 389m)**
- イ 事業費 239 万円 (コミ協事業費 139 万円、県助成金 100 万円)
- ウ 準備委員 コミュニティ協議会役員、専門職ほか 約 30 名
- エ 事業内容 市有地 15ha を借地し面積 3ha を活用して花園、ヤギ牧場、ハイキングコースを開設
コスモス、アジサイ、水仙、桜など四季折々の花の観賞、癒しと健康づくりのハイキングコース 600m の整備、山頂 (標高 389m) の 360 度展望所の整備
ふれあいヤギ牧場、ウサギ小屋の開設、平成 19 年は 10 万人の来園を目指す。



③ 平成 19 年度薩摩川内市の提案公募型補助金事業(補助金改革で新設した補助金制度)

- ア 事業 自然観光公園 柳山アグリランド事業の整備
コスモス園などの事業拡大、サツマイモ栽培 45 a (4 反 5 畝)
ハイキングコース、園内道路などの整備
- イ 事業費 655 万円 (コミ協事業費 150 万円、収益金 5 万円、市補助金 500 万円)



④ 高江中学校文化祭での 1 年生による柳山アグリランドの発表作品

平成 18 年度の高江中学校 1 年生が町づくりの取り組みとして柳山アグリランド題材の 4 作品を発表、柳山アグリランドの将来模型、サツマイモ栽培による焼酎ラベル超本格焼酎「高柳」、「やなぎゅう」「やなめえ」のキャラクター、テーマソング制作



⑤ 柳山アグリランドでの「初日の出」写真コンテストの実施

平成 19 年元旦に「初日の出」に 500 名が来園、「初日の出」写真コンテストを実施



⑥ 柳山アグリランドのコスモス園が「全国コスモス作戦賞」を受賞

平成 18 年に柳山アグリランドの手作りコスモス園が「小さな親切運動本部」から県下で唯一「全国コスモス作戦賞」を受賞した。



⑦ 健康づくり教室「らくらく元気塾」の開催

薩摩川内市主催の健康づくり試行事業として平成 17 年に開始、65 歳以上を中心に約 30 名が参加し柔軟体操や筋肉トレーニングを実施

試行事業終了後は平成 17 年から参加者の自主的的事业として、一人 200 円負担で毎月第 2、4 月曜日に健康づくりを継続実施中



⑧ 峰山地区敬老祝賀会での「高江かえる合唱団」の結成・披露

地区民夫婦で参加し男女混声合唱団

敬老会祝賀会での役員による余興



⑨ 新春の集い「鬼火焚きと凧揚げ大会」の開催

伝統行事の子どもたちへの継承と世代間交流事業を目的に復活後 5 回目の鬼火焚きと凧揚げ大会を実施



⑩ 福祉懇談会の開催

平成 17 年以降 5 月に福祉懇談会と「らくらく元気塾」の体験研修を開催

⑪ 地域防犯の活動

峰山地区の地域防犯のために「みねやま地域防犯こども 110 ぼん」のステッカーを、平成 17 年 に峰山地区コミュニティ協議会役員・運営委員へ配布して車へ掲示



⑫ 峰山地区コミュニティセンターの防火点検と峰山地区自主防災組織の訓練

毎年 6 月地域防災連絡会議、川内川河川事務所と防災懇談会、防火施設点検と消火訓練を実施



⑬ 峰山小学校主催の教育懇談会などへの参画

峰山地区コミュニティ協議会役員、民生委員（児童委員兼務）、子ども 110 番の家などが参加し、子どもの防犯・事故防止の意見交換会出席やアンケートの実施
今年度から 3 小学校と 1 中学校による外部評価委員会が設置された。

(6) 地区コミュニティ協議会関係

薩摩川内市内 48 地区コミュニティ協議会との地区間交流 柳山アグリランド山頂にて



(7) 薩摩川内市関係

① 「ふれあい市民会議」(市長と語る会)の開催

平成 17 年、平成 19 年に開催 峰山地区振興計画の中から 11 件を提出し意見交換、要望については鋭意実現に向けて取り組んでおりほぼ具体化中



② 薩摩川内市の施設を市から指定管理者として受託

薩摩川内市の行財政改革の一環としての市施設の指定管理者の民間委託を受託
平成 18 年 6 月から峰山地区コミュニティセンターを受託
平成 18 年 9 月から高江運動広場を受託



③ 薩摩川内市のコミュニティマイスター事業の実施

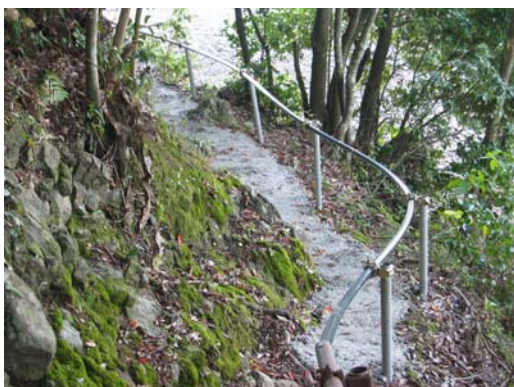
薩摩川内市から材料など支給を受けて、人件費は地区民のマイスターによるボランティア作業で実施する事業

平成 17 年度 3 件実施

干拓事業の長崎堤防築堤の小野仙衛門顕彰碑周辺の通路整備、峰山地区コミュニティセンター看板設置、高江運動広場構内水道設備設置

平成 18 年度 4 件実施

柳山アグリランド県道沿い案内看板設置、柳山アグリランド山水取水設備設置
柳山アグリランド駐車場砂利散布、農道延長 100m・幅 4m の生コン舗装整備



4 今後の課題について

- (1) 峰山地区の振興計画実現のために、地区振興計画を薩摩川内市総合計画に反映したが、今後とも予算を伴う実施計画に取り組めるように努める。
- (2) 峰山地区の地域力とともに、薩摩川内市をはじめ国や県の公的な支援がソフト面・ハード面でどの程度期待できるか、また地区コミュニティ協議会が収益事業が出来るかが、地区コミュニティ協議会存在価値の鍵になるのではないか。
- (3) 峰山地区では、特に農業振興と南九州西回り自動車道の高江インター（開通5年後を予想）周辺を活用した、鹿児島市まで通勤時間30分の500戸定住促進、都市交流農業を組み合わせた「食・農・住」接近と自然環境、史跡、野鳥保全の共生・協働の町づくりを目指したい。

5 市町村合併による影響について

- (1) 薩摩川内市が合併に伴って市内48地区に、地域のほぼ全組織を網羅した地区コミュニティ協議会を設置し地域力を生かすことにしたことは、県内他自治体に例のない画期的なことである。
市当局、市議会、コミュニティ協議会が三位一体で取り組めば素晴らしい地域づくりが可能である。
- (2) 薩摩川内市48地区のコミュニティ協議会が、自主的に地域のことを考え、地域の方向性を地域の総意として地区振興計画としてまとめ、地域にやる気を興させ、また薩摩川内市としても市内全域の課題をくまなく把握することができ、薩摩川内市の施策に生かせることは高く評価できる。
地区民による共生・協働の地域社会づくりの取り組みが醸成されている。
- (3) 薩摩川内市48地区のコミュニティ協議会が創意工夫して、独自性を発揮しながら、お互いに地区コミュニティ協議会が競い合い、計画を実行し徐々に独創的な成果をあげ活気を呈してきている。
- (4) 薩摩川内市48地区コミュニティ協議会の地区振興計画の実現や事業計画の推進には、コミ協役員や地区民のボランティアによる活動だけでは長期的には無理が出てくるものと予想される。
現在の薩摩川内市補助金は、地区コミュニティ協議会への協議会臨時職員月14日勤務の人件費と小額の運営費だけであり、これだけ素晴らしい成果をあげている地区コミュニティ協議会活動に対して、もっと公的支援が人的にも資金的にも必要である。

以上